

社報 御霊本宮

第85号

発行者

御霊神社本宮
宮司 藤井利夫
五條市霊安寺町
0747-23-0178

発行日

令和3年
9月1日

八幡さんの祭り

九月は「八幡さん」の例祭が行われる月です。例祭とは、その神社で一番

大事な祭りのことで、大祭と呼ばれることもあります。

八幡さんは八幡神社を親しみを込めて呼ぶ名前で、御祭神は品陀分命

(誉田別命とも表記)あるいは応神天皇

とされています。品陀分命は神功皇后の御子で、九州で生まれたのち、大和国を平定して応神天皇として即位しました。

「品陀」は、生まれたときに腕に大きなコブがあり、これを「ほむた」と呼んだことから付いた名前です。神功

皇后が朝鮮半島を攻めたとき、お腹には品陀分命が宿っていました。生まれ

そうになったのを、石で腹部を押さえ

て出産を遅らせ、帰国して九州で安産されました。この石を鎮懐石と呼び、今も八幡神社の境内の石をもらって帰り、安産のお守りとする風習が残ります。

八幡神は、元々は大漁旗を意味する海神といわれます。八幡は「ヤワタ」

「ヤハタ」で、ワタは「ワタツミ(海神)」、ハタは「旗」から、そう考えら

れました。大分県の宇佐氏が崇敬した地方神でしたが、ご神託を通じて第十

五代天皇である応神天皇の化身とされ、土着的な神と天皇のご神霊が結び

ついた特別な性格を持ちあわせています。

八幡神社の例祭は九月十五日を中心に行われます。これは放生会に

関係します。放生会は、殺生を戒める仏教

の教えにより、捕獲された鳥や魚、虫などの生き物を自然に放って供養す

る儀式です。

古来より日

本人は、生き

物には霊が宿

っているかと

えてきました。

その供養を行

って功德をつ

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を

つて功徳を



宇佐神宮

宇智郡 狛犬めぐり

表野町 天満神社

平成十三

年に奉納さ

れた新しい

狛犬です。

垂れ耳で

尾や後ろ足

が極端に小

さくなつて

います。

逆に前脚が太く、胸部も膨らみ、頭

部の毛も胴体に大きく長く流れてい

ます。

鼻の形が他の狛犬と違って鼻柱が

高く、鼻の穴がまん丸ではありませ

ん。舌が大きく喉の奥から伸びてきて

いるのも他の狛犬との違いです。頭の

巻き毛が眉毛のよ

うに見えるため、ユ

ニークな顔に見えて

しまいます。



土偶から見る 縄文人の信仰

(下)

土偶が作られた目的として、昨今多くの支持を集めている「人形説」があります。ヒトガタとは、古代から続く日本の文化で、形代かたしろとも言われます。人の形を象った草などに、穢れや厄を移すという習俗です。

その昔、早乙女さおとめ(田植えを担う女性)のいる家庭では、草で「ひとがた」の人形を作り、体に箆へらった穢れを移して、川に流していました。田植えとい

うのは、人の命となる米を植えるとても神聖な行事ですから、それを担う早乙女は、心と体をすっかりきれいにしておく必要があったからです。もつとも、時代が下るとお人形は草に代わって紙で作るようになり、やがてはかわいい人形を作るようになります。それを飾り始めたのが「雛人形」の始まりです。

土偶がこの雛人形と同じような役割を持っていたと考えるのが「ひとがた説」です。この説では、縄文人は人に憑く「悪霊(病気や怪我)」を、身

遮光器土偶

青森県つがる市木造亀ヶ岡から出土した、縄文時代晩期(前1000~前400年)につくられたと推定されている土偶です。

高さ約34cmで、日本で最も有名な土偶の一つとなっています。当初は宇宙人を模したものと評判になりました。

極端に大きな目の表現が、北方民族のイヌイットが雪中の光除けに着用した遮光器(スノーゴーグル)に似ていたことから遮光器土偶と呼ばれています。この種の土偶は、主に東北地方で出土することが多くなっています。



メデフォルメされた体の表現とともに、全身に覆うように施された文様が見どころの土偶です。

代わりになる土偶に移し、悪霊がついていられる部分で壊した上で、埋めたのだと説明されます。つまり、呪術的「治療」というわけです。女性像が多いのは、無事に出産できる可能性が低かった縄文時代、妊婦の腹部に悪霊がついている、と考えたからかもしれませぬ。

昔、アイヌ民族は人が病気になる時、人形を作ってそれを身代わりとし、悪霊を移したといえます。そして人が亡くなると、人形も壊してあの世へ送るのでした。

土偶は年平均一個か二個しか作られていません。もしも病気やケガのために作られていたのなら、とんでもない量になっていたはずで、ですから、土偶は早乙女のような特別な人(シャーマンや首長など)のためのみに作られたのかもしれない。とすれば、土偶の「奇妙な姿」は、シャーマンの仮面や入れ墨であったとも考えられます。

八百万の神々

布刀玉命

天岩戸伝承あめのいわとで、思金命おもいかねのみことの考案した策の善し悪しを判断するため、天児屋命あめのこやねのみことと共に、太占ふとまじと呼ばれる占いをした神です。天香久山あまのかぐやまにいる牡鹿の骨を抜いて、天香久山の天の波々迦ははか(カバノキ)で、焼いて占いをしたとあります。

このため、祭祀(神事)や占いを司る神とされ、その末裔は、朝廷の祭祀を司る氏族として要職を兼ねていったといわれます。神主を象徴する神といえるでしょう。古事記では布刀玉命、日本書紀では太玉命と表記されています。

天岩戸隠れでは、八尺瓊勾玉や八咫鏡などを下げた天の香山いおつまの五百箇真さかき賢木さかきを捧げ持ち、天照大神の前に鏡を差し出しました。玉は祭具の代表としての語で、忌部いんべが作る祭具を使用して朝廷の祭りをを行う忌部氏の祖先神ともなっています。

五條十八景を訪ねて

第十二景「犬飼駅馬」

相送り 相迎ふは 是誰ぞ知る
 北来 南去 定めて何くにか行く
 征鞍に憑載すれば 春風去る
 報ひと為す 隴頭の梅一枝

誰を送り、誰を迎えに来たのか。宿場のあたりには人々が右往左往している。北から来、南へ去っていく旅人たちはどこへ行くのである。馬にまたがり春風に吹かれつつ旅人たちは去っていく。その旅人に道端に咲く梅の一枝を別れのしるしに送ろう。



国道 24 号線の犬飼寺付近

伊勢街道（紀州街道）を通る人々を歌ったものと考えます。犬飼駅馬は犬飼町にある転法輪寺（犬飼寺）の辺りにあった馬借所のことでしょうか。馬借とは、馬の背を利用した運輸業者のことです。馬に人や荷物を乗せて運ぶことを生業としていた人々のことです。交通の要衝や宿場を拠点として活動していました。

犬飼寺のある所は四辻になっていますので、南は十津川方面、北は奈良方面、東は伊勢方面、西は紀州に向かうことができます。多くの人々の往来で賑わっていたことでしょう。

統神社例祭のご案内

須恵町の統

神社は応神天皇を祀ります。

三代実録には、元慶五年（八八一）十月に神階従五位下を授けられていることが記されている古社です。

○宵宮祭 九月十五日（水）午後七時

○例祭 十六日（木）午後一時



秋季例祭はどうなる？

九月に入りました。十月の秋祭りについての会議が始まる月です。新型コロナウイルスの感染拡大（第五波）の影響で八月はじめから、「どうするの？」という問い合わせが相次いでいます。

私が兼務する神社は、その神社の役員さんに決定権があるので問われても困るのですが、「本宮がどうするのかによって」左右されるのだとか。余計、困ります。ただ、はっきり言えるのは、規模を縮小するとか方法は変えても、祭りは行うということです。祭りは、神様への感謝、五穀豊穡の感謝などを行うためのものであり、祭りを全く行わないという選択肢はあり得ないのです。現状では、神輿や山車を出して地域を巡ることは難しいと思われます。本社の祭りは、例年なら二百人を超える参加者がありますが、昨年同様、四十人ほどが参加する祭りとなりそうです。

Instagram @goryohongu



#御霊本宮 #goryohongu を付けて投稿してください。

公式ホームページ

<http://goryojinja.or.jp>

Twitter @goryohongu



日本書紀にみる

十二代景行天皇(二)

天皇は聞きいれられ、八坂入媛を呼んで妃としました。媛は七男六女を生みました。第一を稚足彦天皇(成務天皇)、第二を五百城入彦皇子、第三を忍之別皇子、第四を稚倭根子皇子、第五を大酢別皇子、第六を淳熨斗皇女、第七を淳名城皇女、第八を五百城入姫皇女、第九を籠依姫皇女、第十を五十狭城入彦皇子、第十一を吉備兄彦皇子、第十二を高城入姫皇女、第十三を弟姫皇女といいます。

次の妃の三尾氏の磐城別の妹の水齒郎媛は、五百野皇女を生みました。その次の妃である五十河媛は、神櫛皇子と稲背入彦皇子を生みました。兄の神櫛皇子は讃岐の国造の先祖、弟の稲背入彦皇子は播磨別の先祖です。

次の妃である阿倍氏木事の娘の高田媛は、武国擬別皇子を生みました。これは伊予国御村別の先祖です。

また次の妃である日向髪長大田根は、日向襲津彦皇子を生みました。これは阿牟君の先祖です。

また次の妃である襲武媛は国乳別皇子と国背別皇子と豊戸別皇子を生みしました。国乳別皇子は水沼別の先祖で、豊戸別皇子は火国別の先祖です。

天皇の男女は全部で八十人います。

日本武尊と稚足彦天皇と五百城入彦皇子とを除いた他の七十あまりの御子は、全てそれぞれ国や郡に封せられて各国に赴きました。現在の諸国の別というのは、別王の子孫です。

天皇は、美濃の国造で名は神骨という者の女で、姉は兄遠子、妹は弟遠子というのが共に美人であると聞かれて大確命を遣わし、容姿を見せました。しかし大確命は女と通じてしまったため、天皇は大確命を恨みました。冬十一月一日、天皇は美濃から帰りました。そしてまた纏向に都を造りました。これを日代宮といいます。

(次号につづく)

巫女神楽の実演と解説

市立五條文化博物館では、第二回テ

ィータイム講座が開催されます。神楽についての講話と、巫女による巫女神楽の実演を予定しています。

日時 九月十八日(土)

午後二時～三時半

場所 博物館内研修室

対象 高校生以上

定員 二十人

参加費 無料 ただし入館料必要

学生 二〇〇円

一般 三〇〇円

申込 五條文化博物館受付専用

〇七四七(三〇) 四七一六

休館日(九月六・十三日)

を除く九時～十七時

締切 九月十二日(日)

定員に達し次第締め切り

その他 その他 机はありません。椅子のみです。

万葉の花たち

ときじきぶが(ナツフジ)

わが屋前の時じき藤のめづらしく今も見てしか 妹が咲容を

大伴家持(巻八一―一六二七)

わたしの家のトキジキフジが珍しく咲きましたが、あなたにも長いことお会いしていませんね。あなたの素敵な笑顔が見たくまりました。

二十三歳

の大伴家持が坂上大嬢に贈った歌です。

「時じき」



とは「時ならぬ」という意味です。フジは春に咲きますが、このフジは夏に満開になるので時季外れのフジということで非時藤と名付けられたということです。